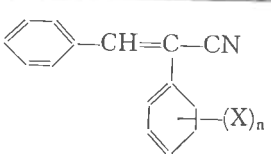


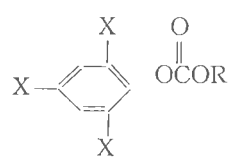
特 許 ・ 実 用 新 案 一 覧

— 昭 和 46 年 度 —

<日 本 特 許> 16件

登録番号 (登録日)	公告番号 (公告日)	出願番号 (出願日)	名 称	要 旨
596000 46. 2. 4 (崎山 和孝, 宮崎 弘)	45-21565 45. 7.21	42-38326 42. 6.15	腐食抑制剤	エチレンジアミン製造において軽生成物, すなわちエチレンジアミン, ジエチレントリアミン, トリエチレンテトラミン, テトラエチレンペンタミンを蒸留して残った高沸点生成物であるポリアミン残渣または軽成分を含む少なくとも一種のポリアミンと重クロム酸カリウムからなる腐食抑制剤。
597841 46. 2.24 (小野 勲, 佐々木博朗)	45-24976 45. 8.19	42-83313 42.12.27	1.5.9-シクロドデカトリエンの製造法	二価の無機ニッケル塩に一種または二種以上のアンモニア, エチレンジアミンまたはポリエチレンポリアミンを配位させてえられるニッケルのアンモニアまたはアミン錯体とトリアルキルアルミニウムとをニッケルとアルミニウムの原子比が1:0.5から1:20の割合で反応させてえられる触媒の存在下で1, 3-プタジエンを無溶媒または不活性液体希釈剤を使用して温度50~180°Cで三量化させ, 1, 5, 9-シクロドデカトリエンを製造する方法。
600258 46. 3.17 (小坂勇次郎, 植村 勝, 木村 正歳)	44-27737 44.11.17	41-19770 41. 3.30	エチレン, 酢酸ビニル共重合高分子を加水分解する方法	エチレン, 酢酸ビニル共重合体高分子中の酢酸ビニル含量に対し, 当量以下の極く少量のエチレングリコール, ポリエチレングリコール, グリセリン等の二価または多価アルコールの存在下にエチレン酢酸ビニル共重合高分子を130~200°Cの範囲の温度で水酸化カリウム, 水酸化ナトリウム, 水酸化カルシウム, 水酸化マグネシウム等の固型もしくは粉末の無機塩基と加熱溶融混練することを特徴とするエチレンを主体とするエチレン酢酸ビニル共重合高分子を加水分解する方法。
600280 46. 3.17 (小坂勇次郎, 植村 勝, 佐藤 昌利, 齊藤 光高)	45-25986 45. 8.27	41-69408 41.10.21	熱可塑性高分子組成物	芳香性化合物1部(重量)に対し, 1~10部(重量)の活性酸化アルミニウムゲルと酢酸ビニル含量1~35重量%のエチレン酢酸ビニル共重合体2~500部(重量)とポリオレフィン34~1,000部(重量)からなる芳香性熱可塑性高分子組成物。
600621 46. 3.23 (迫村 寿男, 入江 邦博, 井上 実, 高尾 忠行)	45-27118 45. 9. 5	42-45974 42. 7.17	農園芸用殺菌剤	一般式  (ただし, XはCl, Br, nは0~2の整数をあらわす)にて示される化合物を有効成分とし, その一種または二種以上よりなることを特徴とする農園芸用殺菌剤
606646 46. 5.25 (小坂勇次郎, 齊藤 光高)	45-33065 45.10.24	42-82016 42.12.21	エチレン, 酢酸ビニル共重合体のけん化方法	エチレン-酢酸ビニル共重合体を, 沸点が30°Cから120°Cの飽和炭化水素-メタノール-水酸化アルカリ系を用い, 共重合体の溶融点以上でけん化するエチレン-酢酸ビニル共重合体のけん化方法。

	登録番号 (登録日)	公告番号 (公告日)	出願番号 (出願日)	名 称	要 旨
7	606647 46. 5.25	45-33066 45.10.24	42-82017 42.12.21	エチレン-酢酸ビニル共 重合体のけん化方法。 (小坂勇次郎, 齊藤 光高)	エチレン-酢酸ビニル共重合体をメタノール性水酸化ナトリウムの共存により, エチレン-酢酸ビニル共重合体の溶融点以上230°C以下の温度, 5~50kg/cm ² の圧力下でけん化するエチレン-酢酸ビニル共重合体のけん化方法。
8	606666 46. 5.25	45-36289 45.11.18	40-80643 40.12.27	炭化水素の熱分解法 (功刀 泰碩, 国井 大蔵)	上方が径の大きい反応帯域となり, 下方が径の小さい輸送帯域となっている反応塔と上方が径の大きい燃焼帯域となり, 下方が径の小さい輸送帯域となっている燃焼加熱再生塔とを併設し, 反応帯域と燃焼加熱再生塔の底部, 並びに燃焼帯域と反応塔の底部をそれぞれ通路により連絡した装置を使用し流動層熱媒体としての粒状コークスを燃焼帯域において加熱高温ならしめこれを主として自重により, 反応塔の底部に移動せしめ, さらに水蒸気等により濃厚流動層状態で上方に送って反応帯において流動状態を形成せしめ, その反応帯域にコンラドソン炭素3(重量)%以上を含む原油, 抜頭原油, 各種残渣油等の重質油ならびに適量の水素もしくは水素を含有するガスを送入し, 800~1,200°Cにて熱分解を行わしめ, 分解生成物を冷却後採取すると同時に, 反応帯域における流動状態から溢流する粒状コークスは, これを主として自重により燃焼加熱再生塔の底部に移動せしめ, さらに水蒸気等により濃厚流動状態で上方に送り且つこれに空気を補給して, 燃焼帯域において粒状コークスを濃厚流動状態に保持しつつ燃焼を起させ, その燃焼によって再生加熱された粒状コークスを溢流により前記のごとく反応塔の底部に移動せしめるように粒状コークスを循環使用し, それを流動状態に保ちつつ, 熱分解することにより, 燃焼加熱再生塔において熱媒体上のコークスを燃焼するとき発生する熱量が原料油を目標とする転化率まで分解するに充分な熱量を著しく超過することのないよう水素もしくは水素を含有するガスにより調整し, 余剰熱量, 或いは副生コークスの生成を制限することを特徴とする改良熱分解法。
9	606645 46. 5.25	45-33301 45.10.26	41-73960 41.11.10	熱可塑性高分子組成物 (小坂勇次郎, 植村 勝, 佐藤 昌利)	酢酸ビニル1重量%~30重量%を含むエチレン酢酸ビニル共重合体100重量部に対し, フタル酸ジエステル最大50重量部, 塩化パラフィン最大10重量部エポキシ脂肪酸エステル最大5重量部より成る柔軟にして酢酸臭を除去せる熱可塑性高分子組成物。
10	610223 46. 6.22	45-38068 45.12. 2	42-32955 42. 5.25	ブタジエンの重合方法 (大津 隆行, 青木 修三, 井本利一郎)	ブタジエンを一般式 $R_{4-n}SiX_n$ (ただし, Rは炭素数1~4のアルキル基, Xはハロゲン, n=1~4) で示されるハロゲン化硅素化合物と還元ニッケルからなる複合触媒を用いて重合せしめ, シス-1.4構造の高い含有率を有する固体ポリブタジエンを製造する方法。
11	612202 4.6 7.13	44-27902 44.11.18	41-74846 41.11.14	不均一系でエチレン, 酢酸ビニル共重合体をけん化する方法。 (小坂勇次郎, 植村 勝, 齊藤 光高)	エチレン, 酢酸ビニルのモル比が5:1よりの酢酸ビニルの少いエチレン-酢酸ビニル共重合体を粒状または粉末のままこの共重合体に対して5重量%を超えない範囲で炭素数4個の脂肪族アルコールを加えたメタノール, エタノールのような低沸点アルコール中でけん化することを特徴とする不均一系でエチレン酢酸ビニル共重合体をけん化する方法。

登録番号 (登録日)	公告番号 (公告日)	出願番号 (出願日)	名 称	要 旨
618165 46. 9.10	46-6502 46. 2.18	42-71347 42.11. 6	12 コークス粒を熱媒体として循環する流動層による炭化水素熱分解におけるコークス粒径の制御方法 (国井 大蔵, 功刀 泰碩)	上方が径の大きい反応帯域, 下方が径の小さい移送帯域となっている反応塔と, 上方が径の大きい燃焼帯域, 下方が径の小さい移送帯域となっている燃焼加熱再生塔を併設し, 反応帯域と燃焼加熱再生塔の底部ならびに燃焼帯域と反応塔の底部をそれぞれ連結管によって連結し, コークス粒を熱媒体として循環することにより連続的かつ安定に炭化水素類を熱分解する方法において, 反応帯域の下部に炭素微粒を懸濁する液状炭化水素を噴霧状で送入し, その温度または/および流量を調節することによって熱媒体であるコークス粒表面における炭素質物質の析出速度を制御すると共に燃焼加熱再生塔の燃焼帯域の側方に設置した燃焼室内において液体または気体の燃料を空気および水蒸気を用いてガス化, 燃焼して発生した高温の燃焼ガスを燃焼帯域に送入して熱媒体であるコークス粒に付着している炭素質物質をガス化, 燃焼し, その際燃焼室から出る燃焼ガス中に残存する酸素の割合を調節することによってガス化, 燃焼する炭素質の量を制御し, これら両制御により熱媒体であるコークス粒の平均粒径と粒径頻度分布が, 熱媒体の流動化, 循環および熱分解反応に好適なものになるようにすることを特徴とするコークス粒を熱媒体として循環する流動層炭化水素熱分解におけるコークス粒径の制御方法。
618139 46. 9.10	46-3362 46. 1.27	41-73957 41.11.10	13 希薄流動層による炭化水素の熱分解方法 (国井 大蔵, 功刀 泰碩)	上方に向って断面積を大きくする反応器の底部を通常の熱媒体使用流動層熱分解反応器の頂部に連結し上部反応器内における粉粒状熱媒体が熱分解に適する希薄流動層状態となりかつ下部流動層断面積の50%以下の断面積に設定された連結部の周囲から軽質炭化水素を吹き込み, 下部流動層から発生する高温の熱分解生成ガスとこれに伴う粉粒状熱媒体の保有熱量を使用して上記の原料炭化水素の熱分解を達成すると同時に全熱分解ガスを冷却し, 下部流動層において発生した不飽和炭化水素の二次的副反応を防いで収率よく取り出すことを特徴とする。希薄流動層を用いて炭化水素を熱分解し, エチレン, プロピレンなどの不飽和炭化水素を製造する方法。
618520 46. 9.13	46-6997 46. 2.22	43-74696 43.10.15	14 農業用殺菌剤 (迫村 寿男, 入江 邦博, 井上 実, 高尾 忠行)	一般式  <p>(ただし, X は Cl, Br のハロゲンおよび R は低級アルキル基を表わす) にて示される化合物を有効成分とし, その一種または二種以上よりなることを特徴とする農業用殺菌剤。</p>
625300 46.11.18	45-40281 45.12.17	42-13501 42. 3. 3	15 粗粒循環型流動層による炭化水素類の熱分解方法並びに装置 (国井 大蔵, 功刀 泰碩)	上方が径の大きい反応帯域となり下方が径の小さい移送帯域となっており, その反応帯域の頂部に小径の連結部をもち, 上方に向って径を大きくする反応器をもった反応塔と, 上方が径の大きい燃焼帯域となり, 下方が径の小さい移送帯域となっており, その燃焼帯域の上方に稀薄流動層燃焼加熱帯域を備え

登録番号 (登録日)	公告番号 (公告日)	出願番号 (出願日)	名 称	要 旨
				た再生塔とを併設し、反応帯域と再生塔の底部、並びに、燃焼帯域と反応塔の底部をそれぞれ通路により連絡した装置において、燃焼帯域において加熱された高温の粒状熱媒体を主として自重により反応塔の底部に移動せしめ下部より過熱水蒸気および必要に応じ原料炭化水素の一部を吹込むことにより濃厚流動層状態で上方に送って反応帯域に於いて濃厚浮遊流動状態を形成せしめ、その反応帯域に原料炭化水素を送入してその熱分解を行なわしめ、更に反応帯域頂部の連結部にガス状炭化水素あるいは原油を蒸留して得られる留出油を供給してこれを反応帯域からの粉粒状熱媒体による稀薄流動層状態で熱分解すると共に原料炭化水素よりの熱分解ガスの冷却を行い、同時に、反応帯域に於ける流動状態から溢流する粒状熱媒体はこれを主として自重により、再生塔の底部に移動せしめ下部より水蒸気等の吹込みにより濃厚流動層状態で上方に送り且つこれに空気及び必要に応じ燃料を補給して燃焼帯域に於いて粒状熱媒体を濃厚浮遊流動状態に保持しつつ燃焼を起こさせその燃焼によって再生加熱された粒状熱媒体を溢流により前記の如く反応塔の底部に移動せしめるようにし、更に燃焼帯域と稀薄流動層燃焼加帯域との接続部に空気を供給して下部よりの可燃ガス並びに微粉状炭素を燃焼せしめることを特徴とする粗粒状熱媒体を循環使用しそれを濃厚流動状態に保ちつつ炭化水素類を熱分解する方法。
625298 46.11.18	46-14468 46. 4.17	42-3902 42. 1.20	アルキレンオキシドの重合法	アルキレンオキシドを、トリアルキルアルミニウムと三塩化チタニウムとからなり且つトリアルキルアルミニウムと三塩化チタニウムの当量比が2:1以上である触媒と接触せしめることを特徴とするアルキレンオキシドの重合法。
16	(井本利一郎, 大津 隆行, 青木 修三, 秋元 明)			

<実 用 新 案> 1件

924116 46. 3.12	45-20765 45. 8.19	41-98502 41.10.24	塩化アルカリ電解槽用黒鉛陽極	塩化アルカリ電解槽に使用する黒鉛陽極に於いて、垂直方向に多数のガス孔を設け且つこれらガス孔にはその径が黒鉛陽極下面より上面に向って小さくなっているテーパを付してあることを特徴とする黒鉛陽極。
1	(矢守 勝二, 友森 恒彦)			

<米 国 特 許> 2件

3564071 '71. 2.16	766969 '68.10.11	Process for Dimerization of α -Olefins	一般式 R_3Al または \nearrow および R_2AlH であらわされる有機アルミニウム化合物 (但し R は C_{2-6} のアルキル基) と一般式 $Ti(OAr)_4$ であらわされるアリルチタネート類 (但し, Ar は $-C_6H_5$ をはじめ $-C_6H_4 \cdot CH_3$, $-C_6H_4 \cdot Cl$, $-C_6H_4 \cdot NO_2$ で示される aryl 基またはその誘導体) からなる触媒に α -オレフィンとを接触せしめることを特徴とする α -オレフィンの二量化または共二量化法。
1	(井沢 正一, 山田 静男, 小埜谷一郎)		

登録番号 (登録日)	公告番号 (公告日)	出願番号 (出願日)	名 称	要 旨
3624170 '71.11.30 (脇山 聡, 内田 侃一)		628559 '67.4.5	Process for Oxychlorination of Ethylene	エチレン, 塩化水素および空気又は酸素の混合ガスを用いて EDC を製造するオキソ塩素化反応をステンレスなどの鉄系材質よりなる反応器を用いて行うに当り, 銅, ナトリウム, マグネシウムの塩よりなり, 各々の原子比が銅1に対し, ナトリウム 0.2~0.7, マグネシウム 0.3~1.5 なる組成を有するものを不活性多孔質担体に担持させた触媒を使用し, 反応を 220~300°C の温度範囲で行うことを特徴とするエチレンのオキソ塩素化方法。

<英 国 特 許> 4 件

1	1212498 '71.4.23 (迫村 寿男, 木佐木 尚, 多田 孝, 真淵 俊介)	1212498 '70.11.18	31327/69 '69.6.20	A Process for Preparing 1.4-Diacetoxy-2-butene from Dichlorobutenes	3.4-ジクロロ-1-ブテン又はこれと1.4-ジクロロ-2-ブテンとの混合物を酢酸のアルカリ塩と反応せしめて酢酸エステルを製造するに当り, 銅, 鉄, 亜鉛の金属単体及びこれらの金属の化合物から選ばれた少なくとも1種を添加することにより1.4-ジアセトキシ-2-ブテンを選択的に製造する方法。
2	1225147 '71.7.14 (脇山 聡, 堀 恭一)	1225147 '71.3.17	37286/68	A Process for Recovering or Producing Dichloroethane	酸素源として空気を用いるエチレンのオキソ塩素化法において, 生成ガスを冷却して大部分の EDC を取得したのち, 不活性ガスに伴われる EDC を回収するに当り, 沸点範囲が 135~190°C の間にあるアルキルベンゼンの1種又は2種以上の混合物に吸収させ, この吸収液を蒸留することにより二塩化チタンを分離することを特徴とする EDC の回収方法。
3	1226526 '71.7.28 (井沢 正一, 清水 明彦, 紀 隆之, 鳴井 衛, 弘中 武士)	1226526 '71.3.31	4180/69 '69.1.24	Process for the Preparation of Chloroprene Terpolymers	スチレンユニットとアクリロニトリルユニットを次の関係式 $St > 0.2 \quad 0.2 < AN < 3.0$ $0.7 - AN < St < 4.0 - 1.7AN$ (ただし, St, AN は, それぞれスチレンユニット, アクリロニトリルユニットの全重合体に対する重量百分率を示す) を満足する組成範囲で含むクロロブレン三元共重合体を 30~65°C で重合することを特徴とする加工性および性質優秀なる耐寒性クロロブレン共重合体の製造法。
4	1231399 '71.9.8 (国井 大蔵, 功刀 泰碩)	1231399 '71.5.12	51251/67 '67.11.10	Process and Apparatus for Thermal Cracking of Hydrocarbon	日本特許 625300 と同じ

<ド イ ツ 特 許> 1 件

1	1468741 '71.6.9 (井本利一郎, 小坂勇次郎, 早田 正明)	1468741 P 1468741.3 '70.6.12	'63.10.17	Katalysator zur Oxchlorierung von Kohlenwasserstoffen	常温に於いて液状又はガス状のモノオレフィン系炭化水素と塩酸及び酸素又は酸素を含むガスでオキソ塩素化する反応に適した触媒組成物にしてアルカリ金属, 及びアンモニウムの重硫酸塩の単独又は2種以上と $CuCl_2$ との複合塩又は複合混合塩が多孔質担体に吸着されており, 且つ上記の重硫酸塩の総量と $CuCl_2$ のモル比が 0.1~10 の範囲にある。
---	--	---------------------------------	-----------	---	---

<フランス特許> 8件

登録番号 (登録日)	公告番号 (公告日)	出願番号 (出願日)	名 称	要 旨
1604221 '71.10. 4		170522 '68.10.18	Procédé de Dimerisation d' α -Oletines et Nouveaux Produit ainsi Obtenu	米国特許 3564071 と同じ
			(井沢 正一, 山田 静夫, 小埜谷一郎)	
70-20829 '71. 3.15		70-20829 '70. 6. 5	Procédé pour Distiller un Monomer Vinylique et four de Distillation utile a et Effet	ダウンカマーのない多孔板を有し、且つ下降液が実験的に塔壁内部全面を濡らし流下しうる構造をもった蒸留塔を用いてビニル単量体を蒸留することを特徴とするビニル単量体の蒸留方法。
			(大槻 進, 堀 恭一, 宮之原 勲)	
70-21346 '71. 3.22		70-21346 '70. 6.10	Stabilisation de e'acide acrylique	アクリル酸を含む系の蒸留において重合防止剤としてジフェニルアミン或いはその誘導体の少なくとも一種とベンゾキノンあるいはハイドロキノンモノメチルエーテルおよび空気(又は酸素)を共用することを特徴とするアクリル酸の蒸留に於ける安定化法
			(大槻 進, 堀 恭一, 宮之原 勲)	
70-29895 '71. 4.26		70-29895 '70. 8.13	Procédé de Production de Copolymeres	少なくとも一成分としてアクリロニトリルを含むクロロブレン共重合体の製造に際し、その分子量調節に少なくとも1個の臭素結合を有するハロゲン化脂肪族炭化水素の少なくとも1種0.1~20.0重量部を存在せしめて、ラジカル開始剤により重合を行うことを特徴とするクロロブレンゴムの製造法。
			(迫村 寿男, 清水 明彦, 紀 隆之, 喜多 篤)	
70-38977 '71. 7.12		70-38977 '70.10.28	Procédé pour Separer l'acrylonitrile du 2-Chlo- ro-butadiene monomère	クロロブレンモノマー中のアクリロニトリルを塩化亜鉛濃厚溶液によって抽出回収する方法。
			(迫村 寿男, 清水 明彦, 森 忠洋)	
70-46495 '71. 9. 6		70-46495 '70.12.23	Procédé du Production de Franes et Noaveaux Produit ainsi Obtenu	1,4-ジオールジおよび/またはモノエステル誘導体と水(または水蒸気)を酸触媒の存在下に反応させて、フラン誘導体を1段で得ることを特徴とするフラン誘導体の製造法。
			(小野 勲, 柳原 忠久, 岡田 宏亮, 古賀 俊国, 木佐木 尚, 真淵 俊介)	
69-20785 '71. 9.27		69-20785 '69. 6.20	Procédé de 1,4-diacetoxy- 2-butene a partir de di- chlorobutenes (et nouveau produit ainsi obtenu)	3,4-ジクロロ-1-ブテン又はこれと1,4-ジクロロ-2-ブテンとの混合物を酢酸のアルカリ塩と反応せしめて酢酸エステルを製造するに当り、銅、鉄、亜鉛の金属単体及びこれら金属の化合物から選ばれた少なくとも1種を添加することにより1,4-ジアセトキシ-2-ブテンを選択的に製造する方法。
			(迫村 寿男, 木佐木 尚, 多田 孝, 真淵 俊介)	
71-4170 '71.10.11		71-4170 '71. 2. 8	Procédé de Preparation de 1,4-Diacetoxybutane	ラネーニッケル又はパラジウム触媒の存在のもとに水素と1,4-ジアセトキシ-2-ブテンを接触せしめることを特徴とする1,4-ジアセトキシブタン-2-ブテンの製造法。
			(小野 勲, 柳原 忠久, 古賀 俊国, 加藤 喬雄)	

<イタリア特許> 2件

887390 '71. 3.15	48019A/70 '70. 6.23	Polimero ad innesto a base di cloruro di vinile e procedimento per pre- pararlo	ポリエチレンの塩素化物、エチレン酢酸ビニル共重合体並びにエチレン酢酸ビニル共重合体の塩素化物の少なくとも1種に塩化ビニルをグラフト重合させるにあたり、メタクリル酸メチル共重合体または/およびその共重合体をあらかじめ塩化ビニルに溶解させておいてグラフト重合を行うことを特徴とする透明性および耐衝撃性にすぐれた塩化ビニルグラフト重合体の製造方法。
1		(小坂勇次郎, 植村 勝, 齊藤 光高, 鈴木 祐二, 高本 邦夫)	

登録番号 (登録日)	公告番号 (公告日)	出願番号 (出願日)	名 称	要 旨
895262 71.10.15 (小野 勲, 山田 静夫, 阿部 裕之, 国広 延子, 田子 和夫)		50979 A/70 70. 5. 27	Procedimento per dime- rizzare o co-dimerizzare una α -Olefina	一般式 R_3Al および R_2AlH であらわされる有機アルミニウム化合物(ただしRは炭素数2~6のアルキル基)より選ばれた少なくとも1種と一般式 $Ti(OR)_4$ であらわされるアルキルチタネート)ただしRはアルキル基)および $Ti(OAr)$ であらわされるアリルチタネート(ただしArはフェニル, 置換フェニル基またはそれらの誘導体を表わし, 置換フェニル基としてはメチル, プチルまたはフェニル置換のフェニル基等を示す)より選ばれた少なくとも1種と一般式 $(R_1Z_1)(R_2Z_2)(R_3Z_3)P$, $R_1R_2R_3P$ で示されるホスファイト型化合物, ホスフィン型化合物(ここで $R_1R_2R_3$ はアルキル, アリル, アルキルアリル基, それらの誘導体または水素原子を示し, $Z_1\sim Z_3$ は酸素原子または/および硫黄原子を示す)およびホスフィンのアルキルエステル型ないしアリルエステル型化合物より選ばれた少なくとも1種の磷化合物, 触媒系に α -オレフィンとを接触させることを特徴とする α -オレフィンの二量化, 共二量化法。

2